資料２

地域のまち・絆づくり検討委員会

中間とりまとめ（案）

平成２７年３月

地域のまち・絆づくり検討委員会

＜これまでの検討経緯＞

◎第１回検討委員会（平成 26 年 7 月 4 日開催）
（議題）「地域コミュニティによるまちづくりの推進と行政との協働について」他
（内容）・本市の地域コミュニティ制度等（これまでの検討の経緯等）
・自治協議会制度発足１０年の成果と課題
・今後の検討委員会の進め方　など

◎第２回検討委員会（平成 26 年 7 月 28 日開催）
（議題）「福岡市の高齢化の将来予測と地域活動の現状等について」他
（内容）・前回のおさらい
・福岡市の高齢化の現状と将来予測
・元気高齢者の活用について
・地域における共助の取り組み（住民同士の「助け合い」「支え合い」等）など

◎第３回検討委員会（平成 26 年 9 月 19 日開催）
（議題）「地域住民が主体的に取り組むまちづくりの実現に向けて」他
（内容）・前回のおさらい
・ひとづくり（人材発掘・育成）のプロセス
・ひとづくりからまちづくりへ　　など

◎第４回検討委員会（平成 26 年 12 月 5 日開催）
（議題）「第１回～３回の意見集約」他
（内容）・第１回から第３回までのおさらい（意見集約）
・地域の絆づくり　※３班に分け，ワークショップ開催
（その他）講義：「まちづくり計画の概要と社会的意味について」
（講師：福山市立大学都市経営学部　前山総一郎教授）

◎第５回検討委員会（平成 27 年 1 月 23 日開催）
（議題）「住民主体のまちづくりについて」他
（内容）・前回のおさらい
・住民主体のまちづくり（「地域まちづくり計画」など）
・強い絆の地域づくり（多様な世代・人が参加する仕組み，交流の場づくりなど）

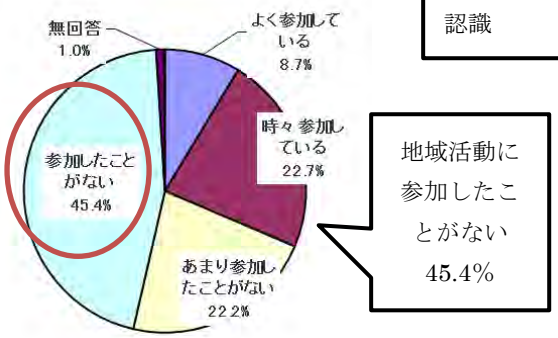
◎第６回検討委員会（平成 27 年 3 月 17 日開催）
（議題）「中間とりまとめ（案）について」他
（内容）・前回のおさらい
・地域のまち・絆づくり検討委員会中間とりまとめについて

1　地域コミュニティの運営基盤の強化

地域の現状と課題（資料及び主な委員意見等）

○近年，多くの地域に共通する切実な課題として，「福岡市コミュニティ関連施策のあり方検討委員会」の提言でも指摘され，また，これまでの地域意見やアンケートの結果等においても示されているものが，「地域活動の担い手不足」である。

＜地域活動への参加状況＞

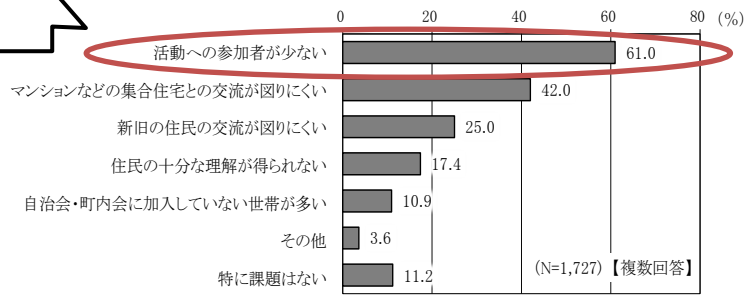


町内会長の61%が課題と認識

地域活動に参加したことがない45.4%

資料：平成 26 年度市ｱﾝｹｰﾄ調査報告書

＜住民に関する課題（自治会・町内会）＞



資料：平成 26 年度自治会・町内会長ｱﾝｹｰﾄ結果

○町内会長の多くが「地域活動への参加者が少ない」という認識をもっており，どうすれば参加者が増えるのか頭を悩ませている。また，活動への参加者が少ないことにも関連するが，地域の役員等について，なかなか次の担い手がみつからず，一度役員を引き受けたら簡単に辞められないといった声も多い。

○また，上記の課題と深く関係するのが「地域活動への負担感」である。活動が負担になっているために，担い手が増えない，担い手が少ないために一人の負担が大きくなるという負のスパイラルに陥っている。特に，自治協議会の会長は多忙であり，負担感が大きい。

＜参考＞

自治協議会長の１か月の活動日数　　約１７．５日　※平成 26 年度自治協議会長アンケート結果より

【課題１】<u>地域活動への参加者の増</u>

・地域に参加する人はいつも同じ。
・多くの方をお誘いするが，１回目は来ていただけても２回目以降はなかなか来ていただけない。
・今は共働きの世帯が多すぎる。その方々を巻き込まないとこれ以上進めない。

【課題２】<u>地域役員等の担い手づくり</u>

・地域の負担が増え，役員の担い手がいないという大きな課題を抱えている。
・役員になれば，後継者を育てるまでやめられない結果，長く続ける人が多い。

【課題３】<u>地域活動への負担の軽減</u>

・行政からの依頼事項が多すぎる。
・地域の一番の問題は，今やっている活動を止められないこと。

課題への対応の方向性（主な委員意見等）

【課題１】地域活動への参加者の増

●魅力ある活動の実施や，活動に参加しやすい仕組みづくりを行う

・どうすれば魅力ある楽しい活動になるかというと，やはり企画に参加すること。
・毎週継続実施のものや，「来たいときだけでもいい」という雰囲気づくりも必要。
・文化祭や体育祭のような楽しい雰囲気ができればエネルギーを注いでいただけるのではないか。
・校区全体でワールドカフェなどを検討しても良いのではないか。
・これからは元気な高齢者が地域を活性化する大きな力になっていく。

●地域活動（参加者）に対するインセンティブを設ける

・高齢者の介護ボランティアに対するポイント付与制度をもっと広範に活用できないか。
・地域通貨のような形でスーパーにも協力していただき，割引ポイントのようなものができないか。

●企業等に対する働きかけや仕組みづくりを行う

・地域活動も企業活動の一つと捉えて，ある程度それを容認できるような環境づくりが企業にも必要。
・コミュニティに関する条例の最初には，よく主体の責任と役割が書いているが，その時に「企業」を入れることが重要ではないか。そう考えると，これは条例をつくらないと無理かもしれない。

【課題２】地域役員等の担い手づくり

●継続的な「人材の発掘・育成」を行う

・新しい担い手の掘り起しを意識した取り組みが必要。
・地域事例で新人の研修の話があったが，まさに一番足りなかったのはそこだと思う。
・人材育成のモデルケース，他地域の成功事例などを取り入れていくと良い。

●地域役員等の負担の軽減を図る（業務の見直しと応分の報酬等）

・まずは地域と行政の役割分担を決めておく必要がある。
・行政の業務の一環であるものはボランティアのような気持ちでさせるのではなく，仕事の一部として，ある程度それに見合った手当を支給する形にしないといけないのではないか。
・会長でなくても対応できるものについては，副会長や他の役員で分担し負担解消を図れないか。

【課題３】地域活動への負担の軽減

●自治組織の効率化や活動内容の見直しを図る

・限られた一部の活動者に最大限活躍していただくためにも，効率的な組織に再編，または活動内容の見直しなど必要ではないか。

●地域と行政の役割分担の整理と行政からの依頼の見直しを行う

・市からの依頼事項の見直しについては解決したわけではないので，引き続き検討していただきたい。

求められる取り組み等

1　地域活動への参加者の増

① 魅力ある活動と活動に参加しやすい仕組みづくり　地域

・活動者を増やす・活動を楽しくする工夫
・「ゆるいコミュニティ」を含めた地域住民の交流の機会や場の増加
・気軽に楽しく参加できる地域行事の実施（地域デビュー応援事業の活用など）
・元気高齢者の活躍推進

② 地域活動（参加者）に対するインセンティブ　地域・行政

・地域活動ポイント制度の導入の検討　など

③ 企業等への働きかけ・仕組みづくり　地域・行政

・企業・事業所等に対する地域活動への理解の促進やインセンティブ等の仕組みづくり
・地域活動における企業・事業所等との連携

2　地域役員等の担い手づくり

④ 継続的な人材の発掘・育成　地域・行政

・人材の掘り起しを意識した事業の実施
・地域活動者に対する研修会の開催
・他の先進事例の共有化

⑤ 地域役員等の負担軽減（業務の見直しと応分の報酬等）　地域・行政

・地域と行政の役割分担の整理と（役員に対する）行政依頼事項の見直し
・役員手当等の検討
・会長一人に負担が偏らないような業務分担の見直し等

3　地域活動への負担の軽減

⑥ 自治組織の効率化・活動内容の見直し等　地域

・自治組織の再編（組織の統廃合，連携強化など）
・既存事業・活動の見直し（思い切った廃止，縮小など）

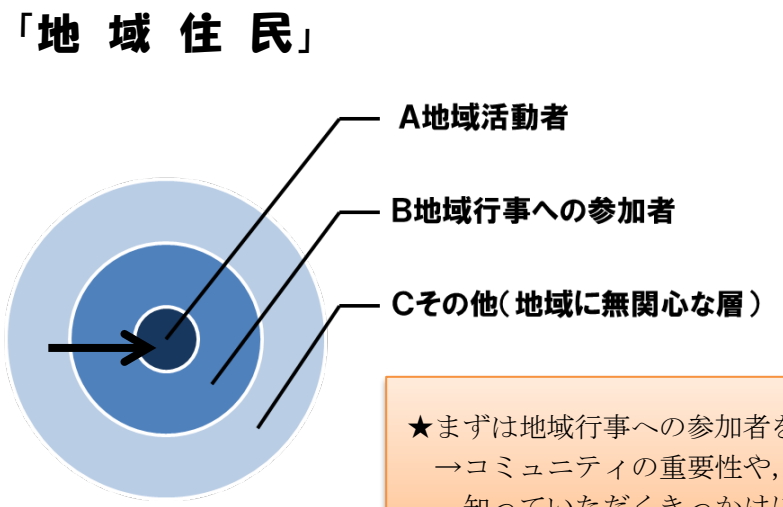
⑦ 行政からの依頼の見直し　行政

・地域と行政の役割分担の整理と行政依頼事項の見直し【再掲】
（どうしても地域へ依頼せざるをえないものには相応の報酬・謝礼等を支給）

＜参考資料＞

●地域活動者の発掘・育成のプロセス（※一例）　　第３回会議資料より

(1) まずは，地域行事への参加者を増やす（下図Ｃの層をＢへ）
(2) 地域への関心を高め，地域活動にいざなっていく（下図Ｂの層をＡへ）
(3) 地域活動者（下図Ａの層の者）については，継続して取り組んでいただく



★まずは地域行事への参加者を増やすという視点が重要
→コミュニティの重要性や，地域活動の楽しさを
知っていただくきっかけになる

（発掘段階）

第１段階：地域行事に参加して楽しむ

→　呼びかけの工夫，魅力ある企画づくり，ターゲットの明確化など

（地域事例）「あかりのともる新池まつり（西高宮校区）」
「ひまわりサンデーラジオ体操（城南校区）」
「三世代交流事業アーリーモーニング・ハイク（西長住校区）」など

（行政施策）**地域デビュー応援事業**　など

第２段階：地域または地域活動への関心を高める

→　地域の良いところや地域活動などについての情報共有，住民参加型ワークショップ等による意見交換，「対話」や「見える化」の推進　など

（地域事例）公民館だよりや自治協議会だより等で活動紹介
「「30 周年記念誌」の発刊・「校区の歌」制作」（田島校区）」
「北崎の魅力とまちづくり活動（北崎校区）」など

（行政施策）自治協議会の運営基盤強化支援事業（住民参加型ワークショップ），
地域活動アドバイザー派遣，コミュニティ通信の発行　など

（育成段階）

第３段階：地域活動者として，継続的に地域に関わっていく

→　地域活動を行いやすくするための工夫，喜びや生きがいを感じていただくような仕組みなど

（地域事例）「新任町内会長向け研修実施と引き継ぎ資料の作成（草ヶ江校区）」
「校区サミットの開催（野芥校区）」
「子ども育成団体の再編（飯倉校区）」など

※その他，ＰＴＡやおやじの会に属している人が，子どもが成長し学校を卒業した後も，継続して地域に関わっていくような働きかけなど

（行政施策）自治活動ハンドブック，自治会・町内会長研修，
自治協議会の運営基盤強化支援事業（再掲），
自治会コミュニティ応援事業，表彰制度　など

●地域デビュー応援事業について

住民の自治意識の醸成と自治会活動への参画を促進するため，自治会・町内会が行う，幅広い世代の住民が気軽に楽しく参加し，交流できるような工夫を凝らした新たな取り組みに対して，３年間を限度に助成を行うもの。（新規・初年度 10 万円まで，その他リニューアル等 5 万円まで）

地域デビュー応援事業　実施事例（平成26年度）

（　）は自治会・町内会

夏祭り・秋祭り	**「ふれあい夏祭り」**(松島1丁目4区)，**「真夏の夜の夢」**(東光2丁目2区)，**「30年ぶりの夏祭り」**(赤坂城内)， **「親睦夏祭り」**(若久6丁目)，**「茶山2丁目秋祭り」**(茶山2丁目)，**「だんちお笑い祭り」**(室見第1住宅)， **「野方町内納涼祭」**(野方)　など
もちつき大会・バーベキュー大会	**「もちつき大会」**(水谷第二)，**「納涼バーベキュー大会」**(千代1丁目8区)， **「年末ふれあい餅つき会」**(中尾1丁目3区)，**「ふれあい餅つき大会」**(梅林5丁目)， **「町内もちつき大会及びバーベキュー大会」**(四箇新町)　など
バスハイク	**「自治会秋のバスハイク」**(香椎浜団地3－1)，**「ふれあい（親睦）バスハイク」**(美野島3丁目3区)， **「休日の小旅行」**(大濠2丁目1区)，**「町内交流促進事業」**(神松寺1丁目)， **「ふれあいバスハイク」**(小田部5丁目2区)，**「下山門団地2区自治会交流事業」**(下山門団地2区)　など
その他	**「陣の越・多々良川ウォーク」**(松崎4町合同)，**「グラウンドゴルフ大会」**(名子（多々良校区）)， **「三世代交流ふれあいカフェ」**(和白東1丁目1区)，**「自然体験交流事業」**(美和台4丁目)， **「ハロウィン＆音楽祭」**(草香江2丁目4区)，**「大名浴衣ショーと大名クイズラリーゴミ拾い」**(大名1丁目11番)， **「天神時間旅行上映会」**(天神1丁目2区)，**「町民交流ソーメン流し大会」**(宮竹本町)， **「サマーデイキャンプ」**(美松町（宮竹校区）)，**「町内会親睦ボウリング大会」**(別府4丁目西)， **「バーベキュー＆防災訓練」**(飯倉7丁目1区)，**「オーシャン＆フォレスト　クリスマスパーティ」**(百道浜)， **「サザエさん通りのある街の木工・リース飾りづくり交流会」**(西新6丁目1区)， **「三世代交流ソフトダーツ大会」**(荒江2丁目)，**「ふれあい体験教室（シュガーアート）」**(有田4丁目1区)， **「迎え火・送り火・紙灯籠祭」**(下山門団地8区)，**「三世代交流事業（地引網とバーベキュー）」**(小松原(西陵校区))， **「三世代交流会（ミニウォークラリー，バーベキュー，ゲーム，花火，スイカ割り等）」**(愛宕1丁目3区・4区)　など

２　住民主体のまちづくり

地域の現状と課題（資料及び主な委員意見等）

〇近年，都市化の進展や個人の価値観の多様化など社会状況の様々な変化により，「住民のコミュニティ意識の希薄化」が全国的に懸念されている。また，自治会・町内会に加入しない人も増えている。

〇福岡市においても，自治会・町内会への加入が進まない地域がある。これは，オートロックマンションで勧誘しにくいなどの理由もあるが，根本的な原因として，コミュニティ活動が「魅力あるもの」と映っておらず，「自分には関係ない」と感じているのではないかと推察される。

〇また，自治会・町内会に加入していても，自分のまちのコミュニティがどのような運営をしており，どのような活動を行っているのかあまり知らない住民も多い。（※もちろん，コミュニティ側は様々な機会を通じて周知に努めているが，実際，その趣旨まで十分に伝わっていないことがある）

＜参考＞　平成 26 年度市政アンケート調査結果より

問　あなたは，お住まいの地域の自治会・町内会がどのような活動を行っているかご存知ですか。

よく知っている	１４．１％
ある程度知っている	４２．４％
あまり知らない	２４．８％
まったく知らない	１４．１％
無回答	４．５％

あまり知らない又は
まったく知らない　計３８．９％

〇住民主体のまちづくりを進めていくためには，多くの住民が，まず，自分の地域やコミュニティ活動に対して関心を持っていないとうまく進まないと考えられる。

【課題１】<u>自分の地域やコミュニティ活動への関心</u>

・問題点はどこも一緒。後継者不足，そして地域に対して無関心ということ。
・やはり地域のことを知らないという状況がある。地域の課題だけでなく，どういう役の人たちがいるのかということさえ知らない。
・地域はボランティアではないのかもしれない。奉仕でやっている人たちが多すぎる。自分たちが面白くないのを無理やりやっているという状態が続く限りどうしようもない。

〇次に，まちづくりは住民の視点に立って進められるものであるが，実際の活動者だけで活動内容等を決定する場合も多く，結果として，幅広い世代の住民の興味や共感を得られないこともある。

【課題２】<u>幅広い多くの地域住民の意見等の反映</u>

・以前，区の振興プランづくりなどに参加したが，将来を担う人たちは若い人たちなのに，なぜか考えるのは年配者ばかり。結果，若い人たちにとって「なぜ？」といった内容になってしまう。

〇また，コミュニティの運営や活動については，地域の実情や特色を踏まえて弾力的に取り組んでいくことが望ましい。たとえば，高齢者が多い地域では高齢者福祉の活動に重点的に取り組む，犯罪が多い地域では，防犯の取り組みを強化するなどである。

【課題３】地域の実情・特色に応じたコミュニティ活動や運営

・各校区が平等に同じことをしないといけないという話をそろそろ考えないといけない。志賀島と百道浜，警固など地域性が異なり同じような形でやれるはずがない。

・その地域にとっては成功であっても，他の地域では違う場合もある。結局，自分たちのまちは自分たちでつくるしかなく，やはり自分たちで知恵を出すということが重要。

課題への対応の方向性（主な委員意見等）

【課題１】自分の地域やコミュニティ活動への関心

●住民が自らの地域に興味を持ち大切に思う心を育む

・地域のことを住民に誇りに思わせないといけない。

・行政に助けていただきたい部分もあるが，自分たちで地域を開拓しないと効果は長続きしない。

●地域の課題や目標，コミュニティの活動状況等の「見える化」を図る

・地域活動やコミュニティが重要ということを無関心層に伝えていくことが重要。一方で，伝えていく方，活動している方々もその意義などをミッションとして共有する必要がある。

・見える化というかパフォーマンス化。地域の定例的な活動がより見えるパフォーマンスになったら良い。あの地域の活動に参加しないと何か損だよという雰囲気づくり。

【課題２】幅広い多くの地域住民の意見等の反映

●子どもから高齢者まで幅広い世代の住民の意見をまちづくりに反映させる仕組みを構築する

・ある地域で１０年前にワークショップがあり，小学校６年生の女の子が二人，自主的に参加されていた。その子たちが１０年たって，今，地域活動を担っている。自分たちで計画をつくったからだろう。

・将来を担う若い人たちの視点もないと，机上の空論に最終的には終わってしまうのではないか。

・若い人を強制的に入れるのではなくて、どのような形で発掘して参加していただくかが大事。

・（地域の目標や計画づくりについて）一部の人だけでつくる計画とならないよう，また，それが地域のやらされ感につながってもいけない。

【課題３】地域の実情・特色に応じたコミュニティ活動や運営

●全市一律ではなく，地域の実情等に応じた弾力的なコミュニティ運営・活動を推進する

・地域の方々の意向を十分に聞きながら，それぞれ地域に合った目標をきちんと立てるべき。

・今までどおりの活動だけで精一杯になっているのが７割だと思う。そろそろイノベーション，変革が必要。地域の変化にいち早く気づき，思い切って変えていくということ。

・まちづくり計画や将来像を前面に出す必要が出てきた時代かなと，非常に重要だと思っている。

・（地域の目標や計画づくりについて）目標を立てるのが目標ではなく，高齢者や若者，子どもなど様々な住民の意見をどうやって取り込むか，つくるまでのプロセスがとても大事。

・（地域の目標や計画づくりについて）これは人材育成だと思う。プログラムそのものが人材育成のプログラムになっており，それを１年もやれば人が育っているはず。

求められる取り組み等

1　自分の地域やコミュニティ活動への関心

① 住民が自らの地域を大切に思う環境づくり　地域・行政

・様々な活動や啓発等を通じた市民の意識の醸成（地域に対する愛着や大切さ）
・地域の歴史資源や特徴・魅力等を活かしたまちづくり

② 地域の課題や目標，コミュニティ運営・活動状況等の「見える化」　地域・行政

・様々な機会・媒体を通じた住民への周知
・校区の様々な情報のオープンデータ化（ＩＣＴの活用）

2　幅広い多くの地域住民の意見等の反映

③ 子どもから高齢者まで幅広い世代の意見をまちづくりに反映させる仕組み　地域・行政

・住民であれば誰でも自由に参加できる「まちづくりワークショップ」等の開催
（※ワークショップで議論した結果をまちづくりに活かしていく）
・住民全員アンケートの実施

3　地域の実情・特色に応じたコミュニティ活動や運営

④ 全市一律ではなく，地域の実情等に応じた弾力的なコミュニティ運営・活動の推進　地域・行政

・住民自ら策定する地域の目標や計画づくりと，計画に基づくコミュニティ活動の実施
（地域まちづくり計画（地域コミュニティ計画）など）

＜参考資料＞

第３回・第５回会議資料より

「地域まちづくり計画（地域コミュニティ計画）」

多くの地域住民で議論した結果をまちづくり（地域活動）に反映させていく仕組み

自分たちの住む地域の基本的な情報から，地域の目指すべき姿や地域課題を抽出し，その解決方法や道筋をそこに住む住民が自ら考えとりまとめるもの。
校区のすべての住民を対象としたワークショップ等を開催し，地域の課題やその対応策等について議論することで，地域住民が自分の住むまちに対して興味を持ち，コミュニティ活動に対する理解促進や，地域人材の発掘，地域の負担感解消などにもつながっている。

＜参考＞地域まちづくり計画　５つの効果（福山市立大学　前山総一郎教授資料より）

・地区一丸となって取り組むこと（調査）で，地域の課題が的確にわかる
・課題解決にダイレクト。地域の最もフィットした将来像を作れる
・声の大きな人などの影響ではなく，多くの人の納得のもとに作られる（地域公共）
・地区のすべての人が「地域の将来像と現在すべきこと」を一目で理解でき，動きがつく
・行政との協働を実現可能へ（計画に書き込むことで，行政計画としても実施容易に）

他都市の事例

★「地域まちづくり計画」（広島県福山市）
第二次福山市協働のまちづくり行動計画（H24～H28）において，３つの重点項目の１つとして「地域まちづくり計画」を位置づけ。
自分たちの住む地域の目指すべき将来への道筋や，課題の解決方法を，住民自ら「地域まちづくり計画」として取りまとめる。市は計画に基づき実施する事業に対して最大 30 万円を補助する。

★「校区夢プラン」（佐賀県佐賀市）
平成 25 年度に地域コミュニティ活性化検討委員会によるモデル事業の検証が行われ，今後の方針についての提言がなされた。
〇全校区で地域コミュニティの取り組みを進めるべき
〇協議会の要件
・住民誰もが参加できること
・役員を民主的に選出すること
・事務局は住民が主体になること
・役員手当は住民の理解を得ること
・地域意見を集約し「まちづくり計画（校区夢プラン）」を策定すること
・部会制度を導入し，協議による意思決定を行うこと

３　強い絆の地域づくり

地域の現状と課題（資料及び主な委員意見等）

〇東日本大震災の影響などもあり，近年，地域の絆や共助に関する市民の関心や，地域コミュニティに対する期待は高まってきている。行政の支援にも一定の限界がある中で，いざというときには地域の実態を最も良く知っているご近所同士の助け合い，いわゆる「共助の力」が大切である。

＜参考＞東日本大震災以降，新たに共助の取り組みを始めた地域　※平成 26 年度自治協議会等アンケート結果
（校区単位）７６校区（約 51.0%）　５５２自治会・町内会（約 23.9%）

※取り組み事例：町内自警団の結成，自主防災組織の設立，独居高齢者等の見守り開始，
非常時の連絡網体制づくり　など

〇特に，これから福岡市は超高齢社会に突入していくことになる。2010 年の福岡市の高齢化率（全人口に占める 65 歳以上の高齢者の割合）は 17.3%（市民の６人に１人が高齢者）であり，政令指定都市の中で川崎市に続いて 2 番目に若い都市であるが，今後高齢化は進行し，10 年後の 2025 年の高齢化率は 24.9%（４人に１人が高齢者），25 年後の 2040 年には 31%（３人に１人が高齢者）となるなど，福岡市の人口構成も大きく変わっていく。

〇高齢者には，元気な高齢者もいれば介護が必要な方もいるが，今後，見守りが必要な高齢者の増加が懸念されるほか，安全・安心のまちづくりをはじめ様々な地域活動への担い手が不足するなど，地域コミュニティにおいても大きな影響があるものと考えられる。

〇このような新たな人口構成の中で，子どもの見守りや子育て支援，防犯・防災，高齢者の見守り活動など，市民が安心して暮らしやすいまちづくりを進めていくためには，子どもから高齢者まで幅広い住民の参画がこれまで以上に重要になってくるとともに，地域住民が普段からの生活の中でお互い交流を深め，自然と「助け合い」「支え合う」気持ちが醸成されるような「強い絆の地域づくり」の取り組みが重要である。

〇地域のまちづくりをこれからも持続可能なものとして進めていくために，住民相互の「絆」がどうすればより強いものになっていくか，あらためて考えていく必要がある。

【課題】「共助の力」（住民同士の「助け合い」「支え合い」の活動など）の醸成

・地域が何をよりどころにしていくかというと，やはり情報が必要。そしてそれは，絆というか，面識，住民がお互い知り合いになることだと思う。
・６５歳以上の人が増えるというが，どこにいるのか。そういう人はなかなか地域に出てこない。
・社会福祉協議会を中心に見守り活動やふれあいサロン等を行っているが，把握されていない高齢者をどのように見守るか。
・福祉は，現場から見るとまだまだ行政がやるべきという雰囲気が強く，地域の６，７割は自分たちがやるべきことではないと思っているのではないか。
・校区によって，自治協議会の中に校区社協が入っていないところがある。また，校区社協と民生委員が別々に見守り活動をしていたり，町内会長の協力を得られなかったり，取り組み方は温度差がある。

課題への対応の方向性（主な委員意見等）

【課題】「共助の力」（住民同士の「助け合い」「支え合い」の活動など）の醸成

●今後の社会状況の変化（超高齢社会等）について住民の理解促進を図る

・一番は「気づき」だと思う。（超高齢社会がもたらす課題や，地域の絆づくりの重要性について,）一人ひとりに気づいてもらう，地域にも気づいてもらう。

●自治会・町内会など小さなコミュニティから「人と人の絆」を育んでいく

・見守りや支え合い，絆づくりは，市，区レベルでは難しく，校区や町内会レベルで考える必要がある。自治会・町内会においてうまく機能すれば，それが校区全体に広がり，区や市に広がっていく。
・子どもからお年寄りまでが安心して住める地域づくりが一番基本。そして，公助に頼るだけではなく，まずは自助，隣近所がよく知り合って，向こう３軒両隣で隣の人が何をしているか，いつどういう形で留守をしているか，あるいは病気をしているかなど，日ごろから分かりあっている状況が望ましい。
・初めて参加された方には，必ず名前を聞く。次にその人にあったときには「○○さん，おはようございます」と必ず声をかける。
・地域住民に必ず町内会に加入していただき，地域のいろいろな活動に参加していただくことが重要。その中から，隣近所お互いの顔を知り合うことで，何かあった場合は助け合うという気持ちが日常的にできてくるのではないか。

●地域住民の交流の「場づくり」等を推進する

・（つつみカフェのような「交流の場づくり」について）これからは，こういう事業こそが住民参加型の事業になってくるのではないか。
・絆づくりはまちづくりの柱なのではないか。絆づくりから始まり，最終的には高齢者の見守りや生活支援などにつながっていく。
・人々が集まったら対話があるし，やる気が起こる。一緒になると何かやれるというのはキーワードかなと思った。
・毎週継続して実施できるようなものが良い。いつでも門戸を広げて皆さん来てくださいよという形で。「来たいときだけでもいい」という雰囲気づくりも必要。
・ウォーキング，犬の散歩，いろいろな時間帯にされているので，そういう方々を年に１回集めて決起集会をしている。１００人ぐらいは集まっている。そこで腕章を渡し，とにかく散歩とかウォーキングをされるとき，腕章だけしていてくださいと。その方たちの義務は決起集会に出ることと，年度途中に１回，防災の講演会をご案内するだけ。あとは自由に自分の時間で見回っていただく。

●地域内における各団体間のさらなる連携強化を図る

・私の校区では，平成２３年から２５年にかけて社協（社会福祉協議会）のＣＳＷと一緒に地域福祉の取り組みを進め，格段に環境が向上した。その際，高齢者地域支援会議というのを立ち上げ，メンバーには町内会長や校区社協，老人クラブ，民生児童委員のほか，地域の役職には特段就いていないが町内のことに詳しい一般の住民の方々にも入っていただいた。

求められる取り組み等

「共助の力」（住民同士の「助け合い」「支え合い」の活動など）の醸成

行政

① 今後の社会状況の変化（超高齢社会等）についての住民の理解促進

・人口構成の変化等がもたらす影響や課題，地域の絆づくり等の必要性の周知・啓発

地域・行政

② 自治会・町内会など小さなコミュニティから広がる強い絆の地域づくり

・高齢者の見守りや生活支援などにつながる「地域の絆」の醸成

地域・行政

③ 地域住民の交流の「場づくり」等の推進

・地域住民の「交流の場」づくり（地域カフェなど）
・多様な世代・人が参加する仕組みづくり
（子どもを中心とした活動の広がり，子育てサークルと老人クラブの交流促進など）

地域・行政

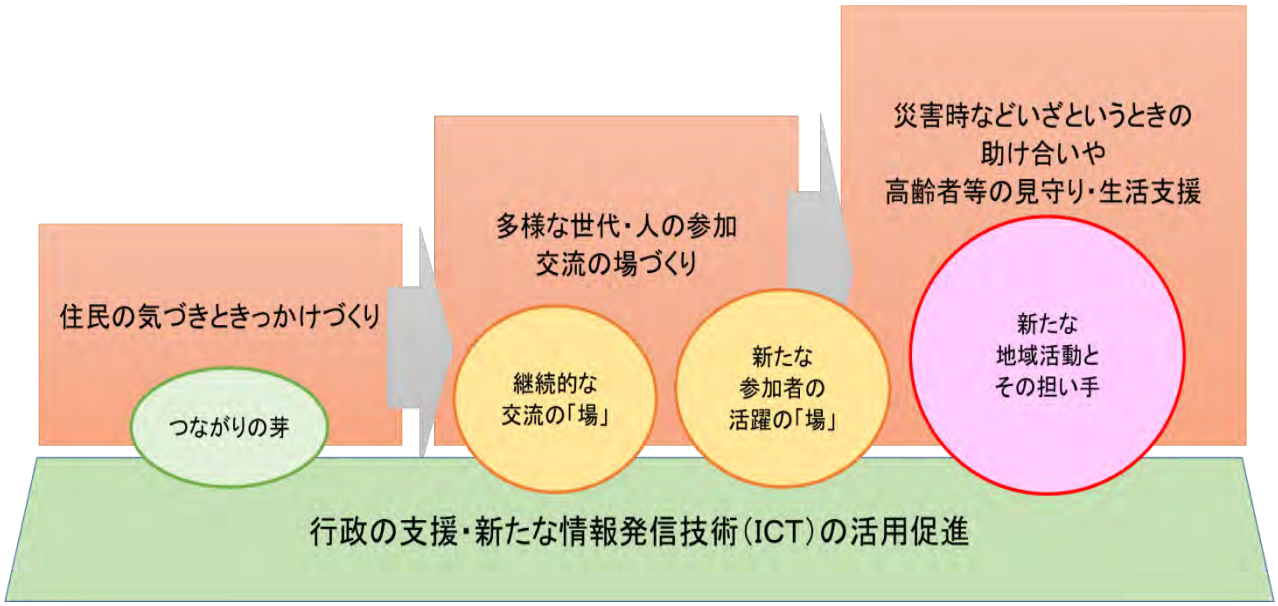
④ 各団体間のさらなる連携強化

・自治協議会と校区社会福祉協議会の連携強化（校区が一体となった高齢者福祉の推進）
・地域内の様々な団体の連携強化

＜参考資料＞

＜図＞　強い絆の地域づくりのステップ（イメージ）

第５回会議資料より



４　全体を通して求められる取り組み

現状と対応の方向性（主な委員意見等）

【１】
○「住民主体のまちづくり」や「強い絆の地域づくり」などを推進していくにあたっては，地域の主体的な取り組みを支援する観点から，市はこれまで以上に地域の実態把握及び助言・サポートに努めるとともに，他地域の先進事例の集約発信や，積極的に地域をファシリテートするという視点が必要。

●区役所による支援を充実する

・行政の支援について，現場をうまく一緒になってコントロールしていくという切り口が出てくれば，大きな効果があると思う。
・町内会長がマンションの建て主と協議する際などに，町内会への加入について，行政も一緒に入って話をすると望ましい。「強制ではないがお願いしたい」と，そういう部分の支援が必要。
・個人情報について，市の言い分も分かるが，敬老会などでお困りのところもあると思う。
・行政はしっかりと地域に寄り添ってやる，そのためにはコーディネートが必要。担当職員は，現在は１人４校区ぐらい担当されているが，これからはその人数では足りないのではないか。

【２】
○近年，多くの地域コミュニティにおいてブログやＳＮＳなどの開設されているが，地域活動者等の負担軽減や活動の効率化などの観点からも，さらに「ＩＣＴ技術」の活用を促進するとともに，今後は情報発信以外の分野においても積極的なチャレンジが求められる。

●ＩＣＴの活用促進を図る

・情報の発信については，相手が今までとは変わってきており，ペーパーが必要な人もいれば，ソーシャルネットワークが必要な方々もいるということをしっかり理解しなければならない。結論的に言うと，やはり若い人たちにはインターネット発信を充実すべきということ。
・ブログの発信は学生などを活用できないか。月に何万円か謝礼を渡してもいいし，学生側としても，つくった自分の広報紙を成果にすればいい。就職活動の際のＰＲにするなど。

求められる取り組み等

行政

①　区役所による支援の充実

・校区担当職員の支援の充実
・他地域の先進事例の集約及び発信
・自治会・町内会加入に対する支援
・地域に必要な個人情報のあり方の検討　　など

地域・行政

②ＩＣＴの活用促進

・まちづくりや絆づくりにおける様々な面での活用　　など

資料３

さらに検討が必要な事項・取り組み（案）

〇地域の共助を必要とする様々な取り組み（防災や子どもの見守りなど）

〇情報発信やＩＣＴの活用について

〇

〇